

【授業改善推進プラン 4年 国語】

児童の状況	○国語の学習に対する意欲が高く、主体的に取り組む児童が多い。一方で、取り組むことに時間がかかったり、最後まで課題をやり遂げたりが難しい児童もいる。 ○「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」のそれぞれの観点における学力について、個人差が大きい。 ○漢字を正しく読んだり書いたりする技能に課題がある児童がいる。漢字の宿題の提出ができず、基礎基本が身についていない。 ○学習したことを活かして文章を書くことに課題や苦手意識がある児童がいる。 ○自分の考えを伝えることに意欲的な児童と苦手とする児童がいる。 ○文章の内容を正確に読み取る力に個人差がある。 ○自分の考えを書くことや、理由や根拠を明確にすることが難しい。
指導についての課題	○「丁寧に書く」と「正しく書く」の区別を明確にし、答え合わせなどの確認作業を習慣化させる必要がある。 ○漢字等の基礎知識を定着させるための時間を十分に確保する必要がある。 ○物語文や説明文の正しい読み取りが必要となる。 ○個人で考える場面と話し合いや学びあいの場면을計画的に設定する必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○単元を見通した学習計画を立てるとともに、単元の導入を工夫することで児童の関心を引き出す。 ○ノートやワークシート、タブレットなど、児童にとって適切な学習材を使用できるようにする。 ○話し合いを通じ、伝え合う場面を意図的に設定する。 ○自分の考えを書く時間の確保をする。 ○音読・読書活動を通して、文章理解を深めさせる。
読み解く力の育成	○「その」「あの」「この」などの指示語は、何を示しているのか丁寧に押さえる。 ○文章中の難しい言葉の意味を丁寧に押さえる。

【授業改善推進プラン 4年 社会】

児童の状況	○社会的事象（社会に関わるできごと）に対しての関心・意欲は高い。 ○資料から事実を読み取ることはできるが、問題解決に必要な事実だけを選び出すことが苦手である。 ○学習の振り返りにおいて、きちんと書き表すことができる児童とできない児童の差が大きい。 ○学習したことや調べたことを、地図にまとめたり、新聞にまとめたりすることに進んで取り組むことができる児童が多い一方で、必要な資料を選びまとめることが苦手な児童も目立つ。
指導についての課題	○個々の理解に差があることから、授業中個別の支援が十分に行き届いていないことがある。 ○個の差が大きいことから、自力解決の場を設けても全員に支援が行き届かないことがある。
授業改善にむけての具体的方策	○前もって授業に活用可能な社会的事象を集めておくなど、事前の授業準備を丁寧に行う。 ○授業の初めに前の時間に学習した基本的な内容を振り返らせる。また、授業終了時に、基本事項の確認をする時間をとる。 ○友達との意見の交流をもつ時間を増やす。
読み解く力の育成	○資料の読み取りに際して、読み取りの視点を与えるとともに、何が分かったのか発表させ、その根拠を問う。 ○動画を中心に多くの資料と触れる機会を授業の中に取り入れる。 ○資料読み取りに際して、グラフ、表、地図など文章以外の資料にも多く触れさせる。 ○単元のまとめの際には、各学習であつかつてきた資料を再度使用し、その資料が何を表していたり、こういった役割をしていたりするかとまとめられる機会をもつようにする。

【授業改善推進プラン 4年 算数】

児童の状況	○意欲的に取り組む児童が多い。 ○計算力や基本的な用語の意味理解・定着などは、個人差が大きい。 ○新しい問題の解き方を考える際に、習ったことを活用したり筋道立てて考えたりする力、言葉・式・絵や図などを用いて解き方を表す力が不十分である。 ○自分の解き方をわかりやすく伝える力が不足している。 ○他者の解き方の説明を聞いた際、自分の考えと比べ疑問点を意見として述べたり質問したりする力が不足している。 ○分度器やコンパス等の器具の扱いが不慣れであったり、手先の器用さによって、うまく扱えない児童がいる。
-------	--

指導についての課題	○四則計算などの基礎的な力を身に付ける必要がある。 ○授業のゴールが明確になるように、授業始めの「めあて」や「振り返り」を常に工夫する必要がある。 ○問題を解くための戦略を身に付けさせるために、指導の工夫が更に必要である。 ○困っている児童に対しての支援方法を更に追究する必要がある。 ○児童の発言力（特に対話的な話し合いの仕方）を高めるための具体的手だてを更に増やす必要がある。 ○継続的に器具を扱い、慣れさせる必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○授業の内容が定着しているかを、まとめを書いた後に数問練習問題に取り組みせ、定着させたり、理解できているか確認したりする。 ○授業のゴールがよく分かるよう、「めあて」の文言を工夫する。 ○電子黒板や書画カメラを活用し、児童の興味・関心を高める。 ○解決法を考えさせる前に、必要に応じて解くための見通しをもたせる。 ○困っている児童を適宜集め、個に合わせた具体的なアドバイスを送る。 ○ノートのかき方・発問や解法でよいものを取り上げ全体に示すことにより、グループ全体の表現力・思考力の底上げを図る。 ○児童が解決法を説明する際、必要に応じて指導者が補助をする。また、価値のある発言や質問を取り上げ、よい点を具体的に示す。 ○視点を明確に示すなどして、振り返りをより充実させる。 ○デジタルドリルなどを活用し、個に応じた習熟を推進する。 ○単元にかかわらず、宿題や日々の授業の中で、継続して用具を扱う機会を設ける。
読み解く力の育成	○文章題の内容を確実に理解させるために、「わかっていること」「聞かれていること」に線を引かせ全体で確認する。また、必要に応じ数直線や線分図、絵などを利用し、文章題理解の一助とする。 ○問題を一人一人が考えた後、解決法をかいたノートを児童同士で読み合う時間を設け、他の児童が考えた解決法を読み取る力を伸ばす。 ○児童の解き方を、書画カメラ等を活用し共有する。そして、どのように解決したのか考える時間を設け、図や表・式などから解き方を読み取る力を伸ばす。 ○定義となる語彙が新たに登場した際、ノートに記載させ全員で読ませたり、当てはまる具体例を考えさせたりすることにより、新しい語彙を確実に定着させる。

【授業改善推進プラン 4年 理科】

児童の状況	○「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」のそれぞれの観点における学力について、個人差が大きい。 ○観察や実験を行っても、なぜその実験を行っているのか、その実験で何を確かめたいのかをつかんでいない児童がいる。 ○実験や観察など、活動を好む児童が多い。 ○これまで学習したことや身の回りの事象から予想を立てたり、実験計画を考えたりすることができる児童が多く、多様な活動につながっている。 ○問題解決型の学習スタイルが定着していない。
指導についての課題	○学習したことを生かしたり、自身の身の回りの生活と関連して考えたりする活動が不足している。 ○振り返りを通して、わかったことや考えたことを簡潔にまとめる指導を継続する必要がある。 ○事実や観点に基づいて粘り強く正確に記録する指導を工夫する必要がある。 ○問題解決型の学習スタイルの定着を図っていく必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○学びを深める問題を解く時間を取り入れたり、振り返ったりする際に自身の身の回りの生活と関連させて考えるよう促す。 ○自分の考えを表現する時間を確保する。考えのまとめ方について、ひな型を示して、自分の考えを表現できるようにする。 ○空いた時間に、NHKの動画やタブレットを使って調べる活動を取り入れ、学ぶ意欲の向上と、知識の定着をより確実にする。
読み解く力の育成	○疑問に思ったことに対する予想や、実験結果をもとにどんなことが言えるかを考え、表現する活動を行う。 ○観察、実験の結果を表やグラフに整理したり、予想や仮説と関係付けながら文章でまとめてノートに記述したりする活動を取り入れる。

【授業改善推進プラン 4年 音楽】

児童の状況	○鑑賞や音楽づくりの学習経験が十分に積み重なっておらず、音楽を形づくっている要素を聴き取ったり、その働きや特徴を捉えたり、それらを生かして音楽をつくったりするために支援を必要とする児童が多い。（知識・技能） ○音楽を聴いて感じ取ったことと、その理由となる音楽を形づくっている要素とを関連付けながら、曲や演奏のよさや美しさについて考え、味わうことに課題が見られる児童が多い。（思考・判断・表現） ○他者と協働して主体的に学習活動に取り組む児童が多い一方で、特定の友達同士での協働に留まり、多様な考えや表現に触れて自らの考えや表現を見直したり、学びを広げたりすることに課題が見られる児童もいる。（主体的に学習に取り組む態度）
指導についての課題	○表現領域の学習機会に比べて鑑賞の学習機会が少なく、多様な音楽表現に触れ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、その働きや音楽の特徴との関わりについて理解する学習機会を充実させる必要がある。（知識・技能） ○聴き取ったことと感じ取ったことを区別して整理するとともに、両者を関連付けながら曲や演奏のよさや美しさについて考える機会を設定する必要がある。（思考・判断・表現） ○他者の考えや表現に触れ、そのよさを取り入れたり、自分の考えや表現を見直したりする自己調整の機会を設定する必要がある。（主体的に学習に取り組む態度）
授業改善にむけての具体的方策	○音楽を形づくっている要素を聴き取る経験を積み重ね、表現・鑑賞・音楽づくりに生かすため、5～10分程度の常時活動として短い曲の鑑賞を継続的に行う。 ○子どもが「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」を区別して考えたり伝えたりするとともに、両者を関連付けてより論理的に思考できるよう、関係を視覚的に捉えられるワークシートのレイアウトや発問を工夫する。 ○児童が他者との交流を通して自らの考えや表現を見直し、音楽的な視点をもって主体的に学習を調整できるよう、「〇〇さんの意見のよいところは何か」「自分の考えや表現に取り入れたいところは何か」という観点で交流し、交流後に自分の考えや表現を見直す機会を設定する。

【授業改善推進プラン 4年 図工】

児童の状況	○カッターなどの用具や、絵の具の使い方、パステルとの組み合わせなどの画材技能などの既習事項は経験がある。しかし、そのような知識や技能の定着には児童間に差がある。（知識・技能） ○自分なりに作りたいものを発想できる児童が多い。しかし、誰かの真似になってしまったり、発想に偏りがあつたりする児童もいる（思考・判断・能力） ○図工全般に対して意欲的である。また、互いの作品の良さを見つけるような雰囲気もあり、心理的安全性の高い状態で活動することができている。（主体的に学習に取り組む態度）
指導についての課題	○技能の定着が十分ではない児童に向けた、より効果的な個別の指導の技術や言葉かけ。 ○発想に偏りがあつたり、なかなか思いつかなかつたりする児童にむけた、効果的な全体指導の方法、授業展開の工夫。
授業改善にむけての具体的方策	○めあてに向かつて楽しく活動できるように、テーマや材料を変えながら、段階的に経験したり、経験を組み合わせで工夫したりできるような題材設定を行う。 ○児童が思い描くイメージを確かめる個別の会話を大切にする。自分の考えが実現する達成感につなげる。 ○特定の児童間だけの交流にならないよう、班の構成を変えたり、共同して制作する題材をバランスよく取り入れたりする。 ○教師の板書から、児童が自身でめあてを設定し、その時間の取り組み目標をもつ。併せて、そのめあてをもとに、その日の活動を振り返る活動を設定する。

【授業改善推進プラン 4年 体育】

児童の状況	○運動することを好意的に捉えている児童が多い。 ○準備や片付けなどに対して、安全に配慮し、協力して行うことができる児童が多い。 ○広い場所に来ると、テンションが上がってしまい、話を聞けない児童がいる。 ○新しい運動に対して、粘り強く取り組む児童が多い。 ○運動能力に個人差があり、動きが硬く、苦手意識をもつ児童がいる。 ○動きを友達と見合い、アドバイスを送り合うなど協働的に学習することができている。
指導についての課題	○一人一人に合った技能の積み重ねができる学習活動や場の工夫をさらに行う必要がある。 ○縄跳び運動など、日常的に運動できる活動や場をもっと増やす必要がある。 ○個に応じた指導の充実を図る必要がある。 ○集団行動を徹底する必要がある。 ○ICT機器を活用した指導方法を適宜実践する。 ○一人一人に課題を意識させるための言葉掛けが充分に行うことができていない。
授業改善にむけての具体的方策	○集団行動等の指導改善を図り、学習規律を整える。 ○十分に取得できていない技能は、学年をさかのぼって練習できるような学習の場を構成する。 ○技能の高い児童の演技を全体の前で紹介するなど、モデルとなるものを示し、参考にさせる。 ○ワークシートに「めあて」「活動」「ふり返し」を盛り込み、1時間あたりの内容を意識して学習できるようにする。 ○どの児童も運動の特性に応じた楽しさを味わえるように、易しい場や規則を工夫する。
読み解く力の育成	○活動の様子を動画・写真にとって確認したり話し合いや振り返りを友達と共有したりする中で、次に繋げる行動を検討する時間を設ける。

【授業改善推進プラン 4年 総合的な学習の時間】

児童の状況	○意欲的に学習に取り組もうとしている児童が多い。 ○探究する事柄に応じて、タブレットや書籍を積極的に使おうとする児童が多い。 ○他教科や生活と関連付けて学習することができる子が多い。 ○課題の解決に向けて、友達と協力しながら取り組む姿が見られるが、友達と交流をしてもよりよくしていこうと学びを深めることのできる児童は少ない。
指導についての課題	○探究心を湧かせられる課題設定を検討する。 ○学習内容に応じて、適切な地域人材やゲストティーチャーなどを活用する。 ○児童一人一人の興味・関心に沿った学習方法を、可能な限り用意する。 ○調べた課題について、自分事として捉え、よりよくしていこうとする実践的な態度を育てていく。 ○友達との交流では、学習内容に対して思考が深まるように気付きを与える工夫をする。
授業改善にむけての具体的方策	○児童の興味関心から、単元計画を組むようにする。 ○ICSの方と連携し、地域の方をどの場面でどのような授業展開にすると効果的かを検討する。 ○学年合同授業や交換授業の実施など、効果的な指導法を検討していく。 ○色々な友達との交流を通して、学び合うことのできる場を積極的に展開していく。

【授業改善推進プラン、4年 外国語活動】

児童の状況	○ALTや友達と外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童が多い。一方で、外国語を使ったコミュニケーションをとることを苦手とする児童も少数いる。 ○「正しく理解したい。」「正しい発音や言葉を話さないといけない。」という思いから、「外国語は難しい。」という印象を抱いている児童がいる。
指導についての課題	○どの児童も外国語に親しみ、すすんでコミュニケーションを取ることができるような学習内容を工夫する必要がある。 ○ALTとの事前打ち合わせの時間を十分に確保し、役割分担を確認した上で毎時間の指導にあたる必要がある。 ○児童の実態に合わせた柔軟な授業を展開する必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○多様なゲームを取り入れ、楽しんで外国語に慣れ親しむことができるようにする。 ○電子黒板やデジタル教科書、絵カードやジェスチャーなどを活用し、視覚に訴えることで児童の理解や意欲を促進する。 ○動画などを活用し、児童の興味・関心を引き、外国語活動への意欲を高める。 ○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度・意欲を高く評価するように声掛け・価値づけをする。 ○積極的に学習にかかわる動画を視聴させ、様々な会話ややりとりを見て、模倣し、友達と実践することで外国語に対する抵抗感を低くする。
読み解く力の育成	○目的・場面、状況に合わせて自分の伝えたい内容や表現に慣れ親しむ時間を確保する。 ○自分と友達の考えを比べるために、友達と意見を交流する場面を意図的に設定する。 ○学習内容に関する動画を視聴させ、どのような会話ややり取りがおこなわれているか考えさせる。

【授業改善推進プラン、4年 特別の教科 道徳】

児童の状況	○教科書等を用いた読み物教材を活用する際には、登場人物の心情の変化を自分自身の経験と照らし合わせながら考えることができる児童が多い。 ○自分事と捉え、自ら考えをもつことができる児童が多いが、感じたことを言語化することが苦手な児童も多い。
指導についての課題	○道徳的価値について、児童が自分事として捉え、真剣に学ぶ指導を工夫する必要がある。 ○授業内で自分の考えを言えるようにしていく手だてが必要である。 ○友達と考えを交流し、自分の考えを深めていけるような交流の工夫を考えていく必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○教科書や副教材、他の教材等、多様な資料を選択する。 ○問に対する「自分だったら」という自分事に考えを整理する時間を設ける。 ○ペアや小集団、学級全体など、多様な話し合いの方法を取り入れる。 ○みんな違ってみんないいという学級の雰囲気、道徳だけでなくすべての教科学習の中で築いていく。
読み解く力の育成	○友達と意見を交流する場面を設定し、自分の考えと比べて違いや同じ点に気が付けるようにする。 ○今までの考えと比べて変わった点に気が付けるようにする。 ○道徳的価値を見出した理由を含めて記述させる。